

いろいろな意味をもつ言葉

名前（

ことば

C-1 解

言葉には、かなで書くと同じでも、ちがう意味をもつものがあります。

一 次の□には、同じ言葉が入ります。入る言葉を考えましょう。
また、その言葉を使ったときの意味を線でつなぎましょう。

① かぜを□ひく ピアノを□ひく つなを□ひく	② ボールが□あたる くじに□あたる 日に□あたる	③ 登山電車で□のる 調子に□のる 新聞に□のる
・ えんそうする ・ 自分の方へ動かす ・ かぜにかかる	・ 光や熱を受ける ・ ぶつかる ・ 引きあてる	・ いきおいにまかせる ・ 乗り物の中や上に身を置く ・ 紙面に書かれる

二 いろいろな意味の「きる」「かく」を集めましょう。

① きる

・ ハンドルをきる

- ・ 紙をきる
- ・ 手をきる
- ・ 服をきる
- ・ 口をきる
- ・ 水をきる
- ・ 電話をきる
- ・ トランプをきる
- ・ 日をきる
- ・ 読みきる
- ・ 原価をきる
- ・ 先頭をきる
- ・ みえをきる



② かく

・ べそをかく

- ・ 頭をかく
- ・ 水をかく
- ・ 汗をかく
- ・ 恥をかく
- ・ いびきをかく
- ・ あぐらをかく
- ・ 文をかく
- ・ 字をかく



にた意味の言葉①

名前（

ことば

C・2 解

言葉には、同じ意味をもちながら、ほんの少し意味がちがい、使われ方にちがいがある言葉があります。

一

「にぎる」と「つかむ」、どちらが入りますか。あてはまる形に直して入れてみましょう。

- ① （にぎり）しめる ② （つかみ）かかる
③ （にぎり）飯 ④ わし（づかみ）

二

言葉の使い方のふさわしい方に○をつけましょう。

- ① （○）酒さかわ勾こう川の洪水ふうずいは、五十回以上もあつたと言いわわれている。
（）酒勾さかわ川の洪水は、五十回以上もあつたと話はなされている。
② （）小田原漆器しき作りでは、かんなを使って木を省はらく。
（○）小田原漆器作りでは、かんなを使って木をけずる。
③ （）金次郎や村の人たちの苦勞を、今に告つげる。
（○）金次郎や村の人たちの苦勞を、今に伝つたえる。

三

次の言葉とにた意味の言葉を

からえらんで書きましょう。

- ① 話す（語る）（しゃべる）（言う）
② 見る（ながめる）（見つめる）（のぞく）

ながめる 省はぶく 語る 見つめる しゃべる
求める のぞく 言う 参る

にた意味の言葉②

名前（

ことば

C-3 解

一 次の意味の言葉を考えて、（ ）の中に書きましょう。

① 持っていたものをなくすこと

失敗をして自信を（失う）。

② 話すこと

友達と楽しく（しゃべ）る）。



二 の中からにた言葉をさがして、となりに書きましょう。
そして、下に文を書きましょう。

にた言葉		文 作 り	
①	②		
ふやす	あがる	例 友達をたくさんふやしたい。	など
たす	のぼる	例 私は友達の家にあがった。 たこが空高くあがった。 ぼくは木にのぼった。 けむりが高くのぼっていく。	など
		三 たす五は八です。	など

やすむ たす けずる みる のぼる わかる

三 「取る」と「ぬく」も、にた意味の言葉です。
文を作ってみましょう。

取る	例 えんぴつを取る。
ぬく	ビンのせんをぬく。

文と文のつながり①

名前（

ことば

C-4 解

だから」や「かし」のように、前の文と後の文のつながり
方をはつきりさせる言葉を、

接続語

といいます。

一

（ ）に、接続語「だから」、または、「しかし」を入れましょう。

① 私は、小田原名産の梅干が大すぎです。（だから ）、おにぎりの
具は、いつも梅干を入れます。

② 急なしゃ面は、水をたくさん必要とする米作りには向いていません。
（しかし ）、みかん作りには向いています。

③ 小田原漆器は手作りです。（だから ）、
同じものをいくつも作るのには時間がかかります。



二

接続語は、ほかにもあります。後ろの から、なかまをさがし
てみましょう。

「だから」のなかま

そのため
それで
ですから

「しかし」のなかま

けれども
でも
だが

けれども

そのため

それで

でも

だが

ですから

文と文のつながり②

名前（

ことば

C-5 解

一 次の文の□には、「だから」が入るか「しかし」が入るかで意味がかわってきます。それぞれの意味を考えましょう。

○毎日、漢字練習をがんばった。□テストは九十

点だった。

だから」を入れ たときの意味	いつもはもつと低い点なのに、今回は良い点が 取れ、努力がむくわれた。
「しかし」を入れ たときの意味	がんばったのに、がんばりが点数にあらわれな かった。

接続語は前の文と後の文のつながり方をはっきりさせるだけでなく、話し手や書き手の

気持ち

を表すことがあります。

二

接続語

だから

しかし

を使って、文を作りましょう。

例

① はりきって、お手伝いをした。

だから、**ほめられた。**

例

② はりきって、お手伝いをした。

しかし、**ほめられなかった。**